

社団法人 東京電機大学校友会

千葉県支部だより

第21号

平成30年5月1日

発行人
(一社)東京電機大学校友会
千葉県支部
支部長 鈴木 修一
〒120-8551 東京都
足立区千住旭町5番
東京電機大学
1号館2階
TEL 03-5284-5140
FAX 03-5284-5187

支部だより第二号発行にあたり

支部長 鈴木 修一 ASUSTEK



例年に倣い今年も「千葉県支部だより」を発刊できました。毎度の事ですが、関係していただいております皆様方のご理解とご支援等、暖かいお心遣いに心から感謝申し上げますと共に、沢山の方々のお手を煩わせたことに深くお礼を申し上げます。

又同時に、昨年、一昨年とご寄付をお願い致しましたが、そのご厚情によりここに「千葉県支部だより」二十一号を発刊できました。事には、心から有り難く思っております。話が少し戻りますが、こうした皆様の篤いご支援が益々輝くように昨年は第二十号に達したのでしたが、校友会からもこの二十号を祝して特別事業援助金をいたたく栄誉を得ました事に、心から感謝申し上げます。

千葉県支部は各県の中でもトップクラスの卒業生を抱え、資金の許す限りで広くお手許へこの「支部だより」をお届けしたく、今年も昨年に続き厚かましいのですが、ご寄付を賜りたくお願い致します。同時にご負担とは思いますが、どうぞ学校のサポート募金にも合わせて宜しく協力をお願い致します。

ご挨拶が遅れましたが、不肖、私は昨年の総会で、前支部長松本宏氏に代わって支部長を拝命致しました。あれから一年近くが経ってしまったのですが、遅ればせながら、自己紹介とご挨拶を簡単にさせていただきます。

私は昭和四十年に電気通信工学科を卒業して、まだまだ普及していなかったコンピュー

タの世界で、その通信技術を買われ、リアルタイムシステムの開発に永きに亘って携わってきました。そして十年程前にこの千葉県支部で開催されてしまった見学会に招かれ、こうした組織の有ることを知り、後に幹事として誘われ、年を経ると共に、経験を重ねる学びながら今日に至っています。

私は秋田県の生まれですが、丁度七十年前の幼い頃に、今居住しております船橋市に移り今日まで過ごして、千葉県人としての矜持の下、皆様と共にこれから成就すべき道を求めて行きたいと考えています。

ここで我々の基本的な態度としましては、まだ序の口なのですが、会員の皆様方の為に我々役員は努めさせていただき、必要に応じて学校との間を取り持てる様にしておく心構えでございます。ですから遠慮なくご要望を聞かせていただき、お互いに知恵を出し合いながら進むべき道を求めてゆく所存です。

差し当たりの実態面、簡単に述べますと、この「千葉県支部だより」を会員皆様の「支部だより」にしたく、以前からお願ひしていただきますように、皆様の生活や旅行等の経験談や趣味、興味のご披露など一般的な話題や、学校への考え等、会員の方であれば、ごなたにも遠慮なく自由な執筆活動をお願いしてきていて、今回も一部ではございますが実現しております。我々対応している者も皆素人であり、どうぞ気軽に「寄稿」されて、少しづつでも皆様の「支部だより」に為されますようにお願いします。

又、東京都支部と協賛しております見学会についても皆様の「要望」に添い、昨年度から、

厳しい真冬の最中の開催を避けて、季節の好い秋に変更しています。ただもう一つ休日開催のご依頼については、見学場所も同じように休日の所が多く苦慮しており、皆様の中で休日開催の情報をお持ちの方がおられましたら、ご連絡いただければ誠に有り難い事です。尚、本誌末梢に本年度の見学会が土曜日の開催である旨、案内をしておりますので、記録おき下さい。

そして今まで我々の組織でも若返りが叫ばれていたのですが、後を担える者達が出始めていて、先輩に続けとの心を弾ませています。合わせて新たに二名の加入者がいた事もあって、平均年齢で二歳若返りました。それでもまだ手薄ですので、我々の作業に興味をお持ちでしたら、我々に倣って、仲間になって戴ければ大いに歓迎致します。

最後になり、この後に開催されます総会におきましては、皆様とより親しく歓談が出来ますことを楽しみにしております。どうぞご参加下さいますようお薦め致します。同時に、会員の方々全てのご健勝とご多幸を祈念致します。



ご挨拶
学校法人東京電機大学 理事長 加藤 康太郎

校友会千葉県支部の皆様におかれましては、鈴木修一支部長のもと、日頃から講演会や見学会をとおして会員相互の親睦と研鑽に努められておりますとともに、本学園の発展にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、日本は急速な少子高齢化を迎え、生産性向上やグローバル化が課題になっていきます。これに対応すべく、IoTやビックデータ、AI等の活用とオープンイノベーションの加速による、超スマート社会の実現が掲げられています。そうした中、日本の情報関連技術者の育成と新しいものづくり教育への期待が大きくなっています。

現在本学は、輝き続ける東京電機大学の実現を目指すべく、平成二六年度から一〇年間の「学園中長期計画「TDU Vision 2031」」を策定し、今年は五年目で中間点を迎えます。より一層、特色ある教育の充実と教育成果の向上を図り、理工系教育・研究において新たな価値を創造し、学園の飛躍を目指しています。

今年度(平成三〇年度)は、理工学部、工学部第二部の改編を行い、理工学部においては学系を再編して六学系とし、「オナーズプログラム(次世代技術者育成プログラム)」を導入、工学部第二部では社会人課程(実践知重点課程)の新設等を着実に実施して、本学の建学の精神である「実学尊重」をさらに具現化してまいります。

千住移転以来、本学は多方面から注目されております。最近の日程の調査では、首都圏一二〇大学で「資格取得に積極的」で四位。「創造力がある」では五位。「高い専門性、専門知識がある」では東大、東工大等について六位にランキングされ、「就職支援に熱心」な大学では全国一〇位になっております。

また、教職員、学生、卒業生も東京電機大学人としての活躍が目玉されております。特に安田学長は、米国民生技術協会(CTA)の殿堂入りを果たされたところであり、直近では、本学卒業生の児玉直選手が、平昌パラリンピックのバファイスホッケー日本代表チームのメンバーとして活躍されました。本学はこの状況を弾みにして、さらなる飛躍を目指して参る所存ですので、卒業生の変な御支援をお願いする次第であります。

さて、ご寄付先を指定いただける「学校法人東京電機大学サポート募金」につきましては、これまでも千葉県支部の皆様をはじめ多くの方々から「厚志」を頂戴しておりますことに改めて厚く御礼申し上げますとともに、今後とも引き続きご協力のほど、お願い申し上げます。

本学園のさらなる発展のためには、卒業生

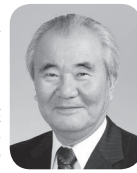
と母校の連携は不可欠であります。千葉県支部の皆様には、引き続きより一層のご支援、ご協力を賜りますよう、改めてお願いする次第であります。

最後に、千葉県支部の益々のご発展と会員皆様のご活躍並びにご健勝を心より祈念申し上げます。

千葉県支部に期待する

一般社団法人東京電機大学校友会

理事長 松尾 隆徳



千葉県支部の皆さん今日は！

鈴木修一支部長のもと、母校東京電機大学を支える有力な県支部として活躍頂き、ありがとうございます。又、永年、支部長としてご指導なされた松本宏前支部長には本当に永い間、ご苦労様、ありがとうございます。

支部事業計画を着実に実行され、母校との絆をより強くして頂き感謝であります。「情報環境学部」の東京千住キャンパスへの移転がほぼ完成した今、千葉ニュータウンキャンパスの将来についても、千葉県支部の皆様にお世話になる面が多いかと存じます。

Web社会、超スマート社会「Society 5.0」と日本政府は世界に向けて新しき日本の姿を発信しました。

一方、東京電機大学はサイバー空間で、人を「安全・安心・豊か」にするための最先端の理工学技術者を世に送り出す活動をしています。又、情報セキュリティの専門教育の一大拠点として活躍をしています。そのための研究・教育設備、環境の整った「千住」、「鳩山」、「千葉」と母校を視察して下さい。

校友会では、卒業生が社会で活躍し、業績を残すことが東京電機大学の発展・名誉に他ならないと受け止め、全国の県支部、電機学会員諸氏との連携交流、情報交換を深めてまいりました。

「技術を通じて社会に貢献する技術者」、「人

間性、人格に裏づけされた技術者」をめざし、全国各地の卒業生が足並みをそろえて超スマート社会を創造・推進する指導者として社会をリードする時です。

「技術は人なり」、「人は徳の高い人のもとに集まる」の精神で論理豊かな技術者の道を歩もう。

平成三十一年は校友会百十周年です。記念のこの時、輝ける東京電機大学・そして校友会、社会を導く技術者をめざそう。

千葉県支部総会報告

常任幹事 田中 豊英おsuinobori

千葉ニュータウンキャンパスで開催される千葉県支部総会は、残念ながら今回が最後となる。今後、千葉県に電大の施設が無くなるので、次回から最先端の設備を誇る北千住の校舎で開催する。

千葉県支部総会開催の前に、例年に倣い、学外の方々も対象にした公開講演会が開催された。

公開講演会

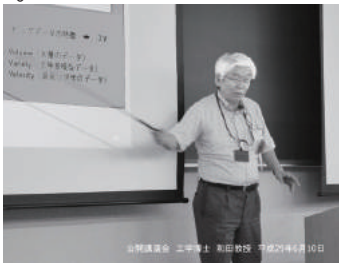
演 題 ビッグデータを利用したネットショッピングの仕組み

講 師 工学博士 和田雄次教授

所 属 本学情報環境学部長 システムデザイン工学部情報システム工学科

本論に先立ち、先生の所属されている学部、学科の紹介があり、次いでビッグデータを利用したインターネット上の応用システムについて紹介、解説があった。この技術の基礎は、

ネット上の膨大なデータベースから目的に応じてデータ間の因果関係を導き出す、いわゆるデータマイニング（データの発掘）手法である。



公開講演会

データマイニングの代表的な応用技術が、ネットショッピング、自動車の情報システム、オンラインゲーム、シェアリングエコノミー（自動車のシェアリングユース、マッチングレンタル）、逆オークションサービス、BTO (Buy To Own) によるPCメーカーの直販システムなど多彩であることが紹介された。

和田先生の研究室の研究テーマの一部に、「みなレン」と称するシステムとしてマッチングレンタル技術の実用化システムを構築中だが、現在は初期段階なので「パーソナル」のレンタルに限定して実験研究を行っている。このシステムは、個人が所有する機器（例えばカメラなど）を個人間で有料レンタルするもので、対象地域は取り敢えず手渡してきける近場（四方三里、十二km四方）を対象にしているが、将来的には広域に広げて実用化を図りたいとの事であった。

物の所有欲が薄れ、事（こと）消費に向かいつつある現在、個人の所有物の有効利用によって収益が見込めるこのレンタルシステム「みなレン」は、将来の発展が楽しみな技術であると考えられる。我々会員にとっても有益な研究紹介であった。

一 司会の言葉 司会 鈴木正仁副支部長

二 支部長挨拶 松本宏千葉支部長 挨拶

千葉県支部だより第二十号発行に当たり、校友会特別援助金及び支部会員45名の寄付があり、支部だよりの発行に使用させて頂いた旨のお礼を述べ、来年度も宜しくとのこと役員に若手会員の応募を募る話。

松本宏支部長は総会後退任予定だが、体調不良のため、この後は鈴木修一副支部長に支部長代行をお願いする。

三 ご来賓紹介 司会

四 学園理事長 加藤理事長（代読）挨拶

五号館（十二階、地下一階建て）が竣工。大学院の充実、もの作りセンターなどに活用する。三学科新設、全国百二十大学でデジタル化第一位、学生の活躍の件、TDRU百十周年記念事業への寄付金募集の件



第47回 校友会千葉県支部総会 平成29年6月10日

年記念事業への寄付金募集の件

五 学長挨拶 安田学長 挨拶

大学の現況の説明、Web 3.0のキー概念などの説明があり、最後に「実学尊重・技術は人なり」のスローガンで締めくくる。

六 校友会理事長 挨拶

千葉県支部だよりの内容の充実性を称賛し、各支部に配布していることを報告。メルマガ配信中とのこと。

七 総会

議長に鈴木修一支部長代理が選出され、議事録署名人選出される。規約により、総会が成立していることを報告。関相談役など他四名のご逝去の報告の後、起立し黙とう

議案

(一) 事業報告 田中豊明副支部長

支部だより、見学会、総会準備、その他の実施報告

(二) 決算報告 鈴木力副支部長

監査結果報告の後、特に質問なく承認された。

(三) 事業計画

田中豊明副支部長
支部だより発行に当たり五十一名の方から総額十四万五千円の寄付があった。今年度も宜しくとのこと。

(四) 予算案 鈴木力副支部長

特に問題なく承認された。

(五) 役員の改選があり、留任を含め、新役員が紹介された。

松本宏氏、田中豊明氏は相談役に、鈴木修一氏は支部長に選任された。退任される前松本宏支部長に校友会理事長から感謝状が贈られた。松本氏は合計一二年間支部長を担われた。

八 閉会宣言 司会

千葉ニュータウンでの最後の締めとして記念の集合写真が撮られ、その後の懇親会に場を移した。

九 懇親会の開催

例年通りに立食による懇親会で、安藤副支部長の司会で始まった。

乾杯の後は、食事時も幾分過ぎているのでテーブルに群がるが、ワンクッションの後は食べながらの会話が弾みをつける。儀礼的な会話もあれば、それまでの総会の内容を論じたり、場所を移動しての親しい会話など、皆さんが都合良く懇談ができて、立食であるが故の和やかさが逸早く醸成されて会の盛り上がる傾向がある。

しかし中に孤立してしまつて人が居て静かに飲んだり、食べたりしているが、それで良い場合もあるし、一方で会話に入りたい場合もあると思うが、そうした場合には講演して戴



た先生の周りに行く事や、支部の役員の付近に集つてゐる。

読売新聞社東京北工場の見学報告

副支部長 鈴木 正仁 MASAMUNE

千葉県支部（東京都支部協賛）見学会を十一月二十七日曜日に実施した状況を報告する。

当日は、晩秋ながら暖かい日により恵まれ、都電荒川線・荒川車庫前駅から隅田川に向かって五分程歩き読売新聞社に到着した。見学者は二名で内千葉県支部が十六名である。

東京北工場は二十三年（平成十五年）十月に完成し、読売新聞の朝刊夕刊・特集版などの印刷を行い、都内や埼玉県、茨城県などに配送している。

工場の屋根は流線形をしており、隅田川流域を吹き渡る川風の自然な通り道の役割をしており、二十四年に北区景観賞を受賞したとのこと。小学生の見学が多いとのことである。入口に展示資料室があり、明治七年（一八七四年）十一月の創刊から現代までの紙面、報道写真のパネルと貴重な実物資料が展示されている。それらにより取材から編集、印刷、発送までの新聞製作の流れが分かり易く説明されている。

読売新聞の歩みが新聞印刷の変遷と生産機器、報道カメラコレクションなどの展示物から読み取れる。輪転機は鉛版を使用していた凸版輪転機の時代からコンピュータを駆使したオフセット輪転機へと飛躍的に発展している事が良く分かる。

製版はCTP（フィルムを使わない全自動製版機）が、本社から受信した紙面データを、手持ち上がる程軽いアルミ板にレーザーで転写され印字面が作られる。

印刷は水と油が反発する力を利用したオフセット印刷の仕組みで、墨、藍、紅、黄の順に紙を走らせながら印刷される。輪転機用紙を時速五十km程の超高速で移動させながら印刷し、朝刊は一時間に八万五千部もの大量に印刷される。これは見ていても、正に目にも止



校友会千葉県支部東京都支部共催見学会 平成29年11月27日

まらぬ速さで、輪転機から巻取り機へ紙が移動する間に、紙が切れ散らないのが不思議な程の迫力である、大型機械であるが、それに勝る精密機械でもある。

それでも輪転機が状況に入る直前には、その初刷りを数人の検査員が、紙面の色合いを慌たたく真剣に見定めている、これから超高速で動き出す機械とは対称的な光景である。

印刷されたロール紙は、次の工程で又凄まじい勢いで切断され、折りたたまれて、新聞販売店の注文量毎に荷造りされる。後は工場内の広いスペースにベルトコンベアが縦横に走り、そこで地区方面別に仕分をされ、待機しているトラックに積まれる、このダイナミックな光景は見事である。新聞販売店の到着になるべく時間差が生じないように小型のトラックに三軒分しか積まずに軽快に走り去る。巻き紙一本は二十数分で刷り上げられる。

巻取り紙は最大千二百kg、全国の読売新聞で一日に二千五百本使用している。印刷部数は、朝刊が一万部弱、夕刊が三百二十万部を越え、世界最多との事である。



この後印刷の現場を離れ、全体の見学となるが、先ず初めに用紙を供給するために、隣の日本製紙物流掘船倉庫よりフォークリフトで入口まで搬送され、後はロボット車AGVで輪転機の傍まで運ばれセットされる。

何処の現場に行っても、輪転機の上部に集塵機が組み込まれているので、紙粉の気配は全くなく清潔感に満ちている。

控え室に戻り、質疑も状況を呈するが、新聞の今後について聞いてみたが、それ程悲観的ではなく、悩みは作業員が減少していて配達人も不足気味との事で、新聞の電子化に期待している模様。現在の発行量は最盛時に比較して七五%位で、この量を維持している。

この工場の従業員は百三十名程、朝刊は真夜中の二時から朝の四時頃まで作業をする二交代制で、全員が連番性の事である。

最後に、本見学では参加した役員が少なく、方々に奔走した。参加頂いた方々には深謝する共に、次回には皆さん全員の参加を期待する。

懇親会は近所の大眾食堂のふじ屋で始まる。このお店は下見に来ていて丁度昼時になったので食事に入ったのだが、餅は餅屋で、適当な宴会場所を尋ねてみたら、お姉さんが忽ちここぞとつかと乗ってきた。普段は夕方からの商売の為に皆昼寝の時間なのだが、我々



の為に貸し切りで対応してくれ、値段も格安で正に渡りに船であった。

宴会も五つのテーブルに分かれ、どのテーブルにも話をリードする人がいる様で、隣のテーブルなどに気の散る余地がない程の盛り上がりであった。

ウルトラトレイルモンブラン

小谷 邦彦 88311554

ウルトラトレイルモンブラン(UTMB)はシャモニーをスタートしモンブラン山群を一周するレースで、フランス、イタリア、スイスを巡り、距離は百マイル(百七十km)で、制限時間が四六時間半である。登った高さの合計を累積標高と云うが、それが九千m超えて海拔ゼロメートルからエベレストを超える高さまで登ることになる。

このレースに参加するためには、直近二年以内に認定された山岳レースを完走しポイントを貯める必要がある。定員は二千五百人である。コースは昔からの有名なハイキングコースで、概ね八つの山を一週間かけて歩くようだが、これを二日弱で駆け抜ける。スタート地点であるおよそ標高千mのシャモニーをスタートして、一気に千m登ってそれを駆け下る。最高点が標高二千五百mで高低差が厳しく、日本のレースとは桁違いである。

ゴールまでには関門が十四ヶ所あり、決められた時間までに関門を出ないと失格になってしまう。この関門を含め十六ヶ所にエイド(休憩所)があり水や軽食が出される。軽食と言ってもバナナやオレンジ以外はサラミ、チーズ、パンなど日本人には口に合わない物ばかりなので、自分で背負う必要がある。又、エイドの内五ヶ所はサポート(支援者)が食糧や衣類などの差し入れることができる。

UTMBは世界のトレイルランニングの頂点として位置付けられていて、山を走り始めた頃からいつかは出てみたいと思っていた憧れのレースであった。私は妻と来ていたので妻にエイドに先まわりしてサポートをして貰

い、食糧の補給を受けた。以下にこの五ヶ所のエイド毎に覚えていることを記す。

一、スタートからコンタミンまで三十km(累積標高1436m、関門時間27日0:00)

八月二六日シャモニーの街は熱気溢れ、ヘリコプターが上空を飛び、ドローンが舞う。ゼッケンの左下には各選手の国旗が印刷されているが、日の丸は単純明快で日本人を見つけては声をかけあつた。

十八時スタート。一、二kmは道の両サイドに幾重もの観客が溢れ、シャモニーの街中を何とも言えない高揚感の中で走る。

この区間は車道を十km走ってから、千八百mの山を超えればよいだけだ、まだまだ先は長いので焦らず行く。正面から見慣れていたモンブランの美しい山並みが、コースを進むにつれ形を変えてゆく。(23:23関門時間まで37分)にコンタミンに着くが、かなり消耗している。

妻にカップ焼きそばを作って貰うが、半分以上が食べられないので、液体ジェルを買い早々と出発する。

二、コンタミン〜クールマイヨール間四九km(累積79km地点、累積標高4,520m)(関門時間27日13:15~19時間15分後)

街中にはぎやかで盛大な声援を受ける。この後ボンノム峠からシャピューまでは記憶が飛んでいる。セイニユー峠までの十kmはずっと登りて標高差は千mあるが、遥かかなたにライトの帯が見えてうんざりする。立山雷鳥沢の二倍位はあって、走れる勾配ではないが得意の早歩きでだいぶ抜き去る(記録では約百五十人抜き)が、最後はバテバテで力を出しきった。夜も明け峠からは素晴らしい景色が広がる。雪渓や歩きにくい岩場を超えて下り、やっとの思いでコンバル湖の関門に着く。関門一時間前だが、相当やりきった感がある。草むらに寝転んでいたが諦めて歩き出す。

ここからはモンブランの裏側が大パノラマで広がり圧倒される絶景だ。イタリア側から見るモンブランは雪が少なく全く違う山の様

だ。千二百mを一気に下って関門のクールマイヨールに一時間十七分前に到着したが、エイドは狭く人でごった返している。カップうどんを食べ、着替えなどをしたらあつという間に五十分が過ぎる。ゆっくり休む間も無く妻に礼を言い出発する。

三、クールマイヨール〜シャンペ湖間四五km(累積124km地点、累積標高7,178m)(関門時間28日2:30~32時間30分後)

暑くて日差しがきついたので力が出ない。湧き水がある度に首筋に水をかけ、帽子を濡らして被るがすぐにうだつてしまふ。七百m登ったバルトンの小屋で動けなくなる。コーラを飲み暫く日陰で横になっていたが、どうにも復活しない。熱射病そのものだ。時間だけがジリジリ過ぎて行く。どの位横になっていたのか、やっとの思いで歩き出す。バルトン小屋から次の関門アニユーバまで十二kmは、

ほぼ水平と下りだが、全く走れない。走らないと間に合わないのは分かっているが体が反応してくれない。次々と後続者に抜かれた。途中のボナティ小屋まで何とか歩き、湧き水をがぶ飲みする。

水質はともかく硬水はお腹を下しやすくと聞いていたが、なり振り構わずになつてきた。少しずつ走り、急坂でスピードを上げ、最後は全力で走り関門二二分前にアニユーバに着いてセ

ーフだ。すぐに関門を出て草原に倒れ込んだ。完全に



力を出しきってしまった。しばらく空を眺めながらどうしたものかと考えるがどうもこうも走るしかない。暑い時には熱いもの、エイドに戻り熱い紅茶と砂糖を水筒に入れて飲みながら歩き出すのが効いた。フェレ峠までの急登を頑張つて歩くが、スイーパー(最後尾の係員)が来ないかと後ろを振り返りながらヒヤヒヤする。おそらく私より後ろは五、六人かもしれない。峠に近づくと今度は雲が厚くなり、気温が急激に下がり風が冷たく、耐えられなくなり雨具の上下を着る。寒冷前線が通過したのか、雷が轟き始めて震えながら峠を越して一気に走り下る。あたりは夕闇に包まれてきているが、ヘッドライトをつけるスピードが落ちるので、ギリギリまで全力で走り続ける。

時間がない、この先走り続けても間に合うかどうか、何処から力が出てきたのか不思議だけれど何人も抜き去る。幸い次の関門まではずつと下りで、夕闇が夜になる寸前まで走り、ヘッドライトをつけしばらく行くと雨が降り始める。幸い雷は少し遠いようだが雷鳴は迫り十分である。細いトラバース道で前の七、八人が遅くて団子になつていて、折角ここまで走ってきたのに抜くに抜けず、やきもきする。前でも「We have no time」と叫んでいるが、暫くしてわずかに道幅が広がった所で、すぐ前の二人が飛び出して抜き去った。グループでないことが分り私も追隨する。足を踏み外したらどこまで落ちていくかわからない闇黒が広がっているが、躊躇なく駆け下つていく。途中で雨が土砂降りになりヘトヘトになつてラフリーの関門に二五分前に入れて間に合った。私が抜かした人達はほとんどタイムアウトだろう。エイドには食べ物などなく、濡れた体には



きついがコーラを水筒に入れ歩き始める。

ここから次の関門シャンペ湖までは十四kmで緩やかな下りのはずだ。「Uターンでは後半になる程関門間の時間設定が緩くなり、走れなくなることを見込んでいたようだ。それでも私にとっては残された時間は僅かで、歩いていったのでは間に合わない。小走りで走ってはつづきまり、歩いてはウトウトする。長い二晩目はさすがに眠る。もうここまでかなと考え始めるが、最後に力を振り絞って関門三十分前にシャンペ湖に疲労困憊で辿り着いた。エイドでは妻が食糧や着替えを広げてスタンバイして有り難く嬉しかった。でも時間が無いので着替えもできず、温かい紅茶にパンを浸して一切れ食べるのがやっとだった。

四、シャンペ湖→トリエン間十七km(累積41km、累積標高8,073m)(関門時間28日8:00で38時間後)

妻に何度も礼を言いながら、「また」歩き始めたが、次の関門までは二千mの山が待っている。ここから記憶がおぼろげだが、気が付くと木々が多くなり地元の山を登っているように、妙に懐かしくなり力が湧いてくる。空が白んでくると気分もハイになり、早足で何人も抜き去った。ピークを超え小走りで下っていると、前方に見るからに七十才近いお爺さんが早足で歩いている。並ぶと「お前は下りが早いな」と声をかけられたが、このお爺さんが私より前をかくしゃくと歩いている方が遥に驚きで世界は奥が深い。

朝の肌寒い中を関門一時間前に元氣よくトリエンに到着してカップヌードルを夢中で口に運ぶ。しっかりと食べるのは十九時間ぶり。美味しかった。妻も言葉がわからない中で寝ずにバスを乗り継ぎ先回りしてくれてくれるよって感謝一杯であった。

五、トリエン→ヴァローシン間十km(累積51km、累積標高8,922m)(関門時間28日11:15で41時間15分後)

まだ二千mの山越えがあったはずだが殆ど

記憶になく、食べられると動きが違って辛い思いも残っていない。憶えているのは日本ではこんなスケールの大きい登り下りは少なく、太ももが強烈に痛かったことで、他のランナーも皆太ももが痛いらしく、言葉はわからなくても、身振り手振りで痛みを共感できるのが嬉しい。

関門一時間前にヴァローシンに着いて、やっと完走できる確信が持てた。ここからゴールまでは歩いて間に合うはずで嬉しく、妻とゴール前で会うことを約束して別れる。

六、ヴァローシン→シャモニー・ゴール間十八km(累積16km、累積標高9,889m)(関門時間28日16:30で46時間30分)

テッド・オー・ヴァンへの登りが急できつく、喘ぎながらも何とか超え、フレイジールの最終関門に着いた。あとはシャモニーのゴールだけだ。ここでトイレに行くとい血尿が出て、自分で思っている以上に体が悲鳴をあげているのかもしれないが、あと少しでシャモニーの街まではずっと下り坂で、もう嬉しくてしかたない。初めは歩いていて走り出して段々速くなって、心の底から叫びたいような嬉しさだ。街中に入ると行き交う人達が拍手や声援で迎えてくれる。足の痛みも忘れてハイタッチを受けながら踊るように走る。メインストリート前に妻が待ってくれたので、手をつないで一緒に走る。道の両脇に人垣が歓声の中を二人でゴールできた。四五時間四十五分二秒、千三百五十位で終わった。



上出来だった。独りでは難しかったと思う。それにしてもシャモニーでの歓待ぶりは想像以上だった。ゴールする

一人ひとりに対してまるで優勝したかの様に迎えてくれるし、ゴール後、街を歩いていても会う人皆が「ブラボー」と言って賞賛してくれ、ランナーに対するリスペクト感、日本では考えられない位だ。

(出走者は86ヶ国2,555人で完走者は1468人、完走率は57%トップは22時間0分で、日本人は約120人が参加して完走者は83人である。)

本記事を書いた小谷さんは埼玉県支部所属であるが、体育会山岳部の仲間であった鈴木支部長が、お願いをして寄稿して貰った。有難う御座いました。

科学のフロンティア(常温核融合)

田中 豊英 著

人類は、天動説から地動説に移行し、物理現象を客観的に評価できる力を得た後、万有引力の発見に始まり、電磁気学を確立し、長足の進歩を遂げた。二〇世紀に入ってから量子力学が確立されて物性物理学が発展し、それによって半導体物理学が発達しました。その恩恵を受けた代表的な分野は、微細加工技術を伴ったLSI技術である事はご存知の通りです。ファームウェア、高精細表示技術、更に五Gも伴ってスマホの通信技術の進歩は留まる処がありません。これらの技術は検証が比較的容易にできるので、急速に発展しましたが、まだ未解明の科学のフロンティアは行きつ戻りつ、大変な苦勞を伴っています。

その代表例が一九八九年に発表された常温核融合です。核融合とは核分裂の逆で、重水素や三重水素が融合してヘリウムに転換される現象で、その時に減少した質量が熱や放射線として放出される現象です。今まで研究されてきている核融合は、高温高圧の状態を作り出し、重水素等に大きな運動エネルギーを与えて互いを衝突させて核融合を起こそうというのですが、常温核融合は、これが室温(300K)で可能というのが世界中で大きな注目を集めたのです。

今でも覚えていますが、常温核融合報道の直後、追試を行った東京農工大の小山先生が応用物理学会・春季講演の申し込み締め切り後に実験データを引つ提げてビッグニュースとして特別入稿して発表されましたが、その講演会場は超満員でした。その年は、発熱が認められたという発表が世界中で相次ぎました。すなわちパラジウムに重水素を注入すれば常温で核融合が出来るという訳です。ところが詳細な検証が進むにつれ、客観的に有意差のあるデータは何処も見いだせないまま実験誤差の範囲から脱し得ず、その結果「常温核融合は起きていないようだ」という結論に至り、下火になりました。

ところがその後地道に研究を続けたグループがあり、ZnOの資金を得て、昨年末までに神戸大と東北大がそれぞれ同一の実験装置を設備し、共通仕様の実験を繰り返した結果、二〇〇gのパラジウム試料で二〇、二〇Wの発熱がひと月持続するという事が判りました。

結論は、パラジウム単独ではだめでニッケル(Ni)など他の金属を過剰に添加した組成にすると発熱するという事が判りました。これはパラジウムに対する不純物です。しかも重水素の場合はセシウムやストロンチウムへの核変換は起きるが放射線は発生しないようです。東北大の装置では、試料を取り付けたセラミックスが溶ける様な高温も発生しており、通常の化学反応では全く説明がつかない未知の反応が起きていることは間違いないと結論しています。以前は世界の代りが実験しても普遍的な結果が得られなかったことから、「二セモノの科学」と言われ、今でも常温核融合が起きると信じている研究者は非常に少ないと思いますが、現象発見から約三〇年、今後の研究結果が期待されます。

このように、科学のフロンティアは、挫折、失望の連続ですが、その機構が解明された時には、飛躍的な発展が期待される事は歴史が証明しています。例えば、一九六〇年代、東

欧の貧乏大学でアモルファスシリコン薄膜 (a-Si) ができたと発表された時、アメリカの名だたる大学等で追試を行っても成功しなかったが、間違つて水素を混入したグループは安定なものができたのです。後から考えると東欧の装置は粗末で高真空が得られず、水素が残っていた為偶然できたが、最先端の装置は超高真空だったので水素すら無く、成功しなかった事が判りました。白川先生の有機半導体も、たまたま不手際で添加された高濃度の不純物が、電気伝導性をもたらした事は有名です。高純度のやのでも、3価や5価の不純物を僅かに添加することによってpやn型の半導体が得られ、今日の隆盛を招いたことは良く知られています。料理も僅かな調味料の添加で旨くなります。不純物は天下の調味料、正に調味料万歳です。

蛇足になりますが、現在主流の軽水炉より小型で量産可能な安全性の高い原子炉の研究開発が、アメリカ(進行波炉、小型モジュール型軽水炉)、カナダ(溶融塩炉)、中国(小型炉)、日本(高温ガス炉)などで進められています。戦前の巨艦主義が時代に合わなくなったのと同じで、扱いやすい小型炉が世界のすう勢の様です。

縄文文化と八ヶ岳展覧

安藤 志朗 44SD201004

千葉県支部の皆様、総会での連絡でしか会えませんが、もっと参加者が増えたら、学園もさらに発展するのですが、是非同窓会や校友会のイベント等にご参加いただけませんか？

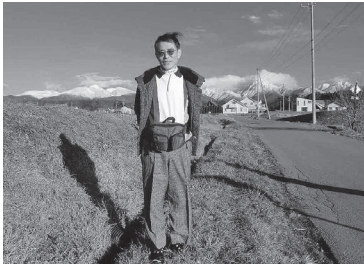
ところで、日本人のルーツとは聞かれたら、大抵の方々は、南方系、北方系、アイヌ系などの混血だとお答えになるでしょう。今回はそれを覆す論文が発表されました。それを讀んだ時の私の驚きは今風に言うとビックリポイントです。驚きでした。それで、本当かどうかを確認するため、中央高速で、山梨県、釈迦堂縄文遺跡博物館を見学しました。ついでに

数年前に美濃戸口から登った雪の八ヶ岳を展望しようと思つたから白樺湖を探索しました。その紀行文です。

先ほど日本人のルーツの話をしていました。日本は島国ですから、そんなに難しくないと考えていましたが、資料を見ると難しいですね。天孫降臨伝説では、アメニギシクニニギシアマツヒタカノニギノミコトが天の剣を海中に差し入れ、その雫で北海道本州四国九州を作ったと記載され、その伝説の真贋の意味で、高千穂の峰山頂には、天の逆鉾がありますね。では、韓国や朝鮮人のルーツは？朝鮮人はどこから来たの？と聞かれたら、私を含めて、殆ど方々が中国や満州・ロシアからと答えるでしょう。それが今回発表された論文で驚く報告がされました。

日本の縄文時代は、今から二万年前から二千二百年前まで存在していました。そしてその縄文人の骨格やDNAを調べてみると、古代史研究家の長浜浩明さんの話によると、縄文人の女性の遺伝子が九九%であると記載されています。これは、私も知らない事だと考え、縄文文化時代の釈迦堂や原村遺跡を見てよくつとつた次第です。

平成二十九年一月三日に、我が社の東京支社を出発し、首都高から中央高速と走り、山梨県笛吹市に、ここに釈迦堂縄文遺跡があります。ここは、縄文中期から五千年前から四千五百年前頃までの、集落跡です。国の重要文化財だけあって、土器や土偶石器など六千点近くが存在して、指定されています。出土土偶と呼ばれているものは、股間部分に赤ちゃんの頭らしき突起が見えます。土鈴はその中に球が入れてあり、音が入ります。



縄文人の音なのか

も？ 水煙土器などはあまりの美しさに驚くほどです。でも、どこで韓国朝鮮人のルーツと結びつくのだろう。その長浜浩明さんの研究では最終的に、韓国朝鮮人は「縄文人を母」に「北方民族を父」にもつ、ごく最近に誕生した混血民族であると締めくくっています。つまり、縄文人が渡朝鮮するまで、韓国朝鮮には人類は住んでいなかったのです。

皆様方はどのように判断されますか？ 私は、驚きのあまり、この本や研究書を処分してしまいました。今の日本を考えると何が本当何が嘘なのかわからなくなってきたつたりますよね。それで、自分の目で見て、判断できるものは何かと問つて、縄文文化を見てよくつとつた次第です。しかし、この釈迦堂遺跡を見てもわかりませんでした。そこでさらに最近研究が進んでいる、長野県原村の八ヶ岳美術館通称原村歴史民俗資料館を見てよくつとつた次第であります。

ここは、清水多嘉示の彫刻や美術をメインに展示してありますが、凄いのには縄文文化の遺跡である。あまりの多さに読みこなせないほど。いったい日本はその頃世界の中で、どうなっていたのだろう。この建物も凄い。上から見ると十字架が二つ重なったような白い建物です。中とはつとつと、少し前に白装束教団がマスコミを賑わしたが、どのように張り巡らしたのか、その白いカーテンのようなオブジェは一見の価値があります。でも、ここでの見聞も縄文人と韓国朝鮮、日本人のルーツだと言つた決定的な結論は見いだせなかったのです。でも、富士山の美しさと八ヶ岳のダイナミックさはよくわかりました。その写真がこれです。千葉県だけにいてはわからない日本が、いや世界が国内にも多数あることを理解できた旅でありました。電大は「技術は人なり」と言つてキャッチフレーズで一世を風靡しましたが、私たちがまだ真贋を見定めていない事柄も多数あることが分かった、今回の見聞旅行でありました。

身近なものに浸透するソフトウェア

長島 宏明 082013H094

初めまして、今年度から校友会千葉県支部の活動に参加させてもらうことになりました長島と申します。今回支部だよりの記事を任されましたが、これと言つて皆さんに興味を持ってもらえそうな趣味などありませんので、仕事絡みのことになってしまっていますが、最近行っている活動について紹介をさせていただきます。

私の仕事はソフトウェアの開発です。通常の業務は大きな企業からの依頼でソフトウェアを実装する受託作業です。会社では、Webアプリケーションの開発や業務アプリケーションの開発を行う人が多いですが、私は、組み込みソフトウェアという分野の作業を行っています。組み込みソフトウェアでは、WindowsやLinuxといったOSの上で動くアプリケーションの開発ではなく、ハードウェアを直接操作するようなソフトウェアを作っています。

その業務に関連した活動を、会社の主業務とは別に行っています。その活動では、最近流行りつつあるホームネットワークの調査やソフトウェアの開発・公開を行っています。

昨年末にスピーカーやスマートスピーカーといったものがGoogleやAmazonから発売され、ホームネットワークについて関心を持つ人が増えてきた様に感じます。

スマートスピーカーがどんなものか紹介しますと、筒状の機器に話しかけることで、照明を付けたり、空調の温度を変更したりといった操作を行うもので、家電の操作だけでなく天気を聞いたり、電話を掛けたりすることも出来ます。残念ながら私はまだ使っていないのですが、スマートフォンの機能を家電と連携するよう進化したものと考えています。

スマートスピーカーが発売されたものの、スマートスピーカーに繋がる家電は少なく、まだまだこれからの機器だと思いますが、今後家

公開講演会

身の丈に合せたリハビリテーション装置

我々が歳をとっても元気で楽しく長生きするためには、身体の衰えを少しでも防ぐ筋力トレーニングやリハビリが重要になります。そのため最近では、高齢者でも使用できる筋力トレーニングやリハビリのための装置が作られています。しかし、これらの装置はトレーニングジムなどで使うもので、大型で家庭では使い辛いものが多いのが現状です。また、小さいものも作られてはいますが、使う人に合った強さを選ぶのが難しく、場合によっては使うことで怪我をしてしまうという問題点を持っているものが多いのも現状です。これに対して私の研究室では、小型で身体に装着することが可能で、その人に合った強さのトレーニングやリハビリができる装置を開発しています。本講演では、これらの新しく、人に優しいトレーニング装置を紹介し、最後には、私の研究室の技術を活かして企業と商品化を目指し、現在リハビリ病院での臨床試験を行っている脳梗塞後の歩行リハビリ用機器の実演も行います。



三井 和幸教授
先端機械工学科

< 経験者にも未経験者にも興味のある課題と思います。どうぞこぞってご聴講下さい! >

このように、ホームネットワークは社会問題の解決や利便性の追求などで、今後ますます普及が進んでいくと考えています。ソフトウェアの話に戻りますが、同じソフトウェアでもアプリケーションの開発と組み込みソフトウェアでは、少々文化が異なっています。コンピュータ関連の進化はとて早く、ソフトウェアも作りやすい環境になってきています。大雑把に言うと細かいことを気にしなくとも、コンピュータ自体が穴埋めをしてくれるようになって、ソフトウェアの開発が楽になっていきます。ところが、組み込みソフトウェアはその進化が遅いように感じます。ハードウェアの制御が主な仕事のため、

電製品がスマートスピークで操作が可能になるよう、ネットワークにつながる機能が期待されると考えています。また、家庭用の太陽光発電や蓄電池なども普及が進んでいて、これらを管理したり、連携して動いたりするために、EMSといわれるホームネットワーク機器が既に使われています。EMSを導入していない家庭でも、電力使用量を電力会社が収集するためスマートメータという機器が、全国で普及が進んでいます。最終的には国内全戸に設置されます。電力の自由化でガス会社が電気を提供できるようになるのもスマートメータのおかげです。

題の解決にも利用されるようになります。家庭用の設備メーカーでは、各部屋のドアの開閉などを監視することで、在宅の状況が把握でき、宅配時間の決定に利用したり、トイレから立った後、トイレのドアが開かなかつた場合、倒れたのではないかと推察し、関係者に警告を出したり、という利用法も考えられています。高齢化社会や共働き世帯の問題点を見守りサービスで解決することが出来るようになるというわけです。

携わる人も少なく、別の機器への応用もあまりできないのが原因ではないかと思っています。ところが数年前から、ホビー向けに組み込みソフトウェアの開発が流行り始め、通常は企業内で隠されてしまつようなソフトウェアも、だれでも自由に使えるように公開されるようになってきました。公開されたソフトウェアを組み込んだり参考にしたりすることで、大企業が予算をかけて作っていたような機器も、製品レベルではありませんが、自前で作れるようになっていきます。

ホームネットワークの活用では、多数のアイデアが試され優れたアイデアで世の中を変えていくと考えています。多数のアイデアが試されるには、個人レベルでも試作できる環境があると好ましいと思います。私の仕事は、多くの公開されたソフトウェアに助けられています。無償で利用できるのに仕事を進めるのに欠かせないソフトウェアを多数使用しています。このような自由なソフトウェアに魅力と感謝を感じています。その一端を述べれば、私もホームネットワーク関連でソフトウェアをいくつか公開しています。それが私の主業務以外の仕事となっています。

昭和三十九年と云えば経済成長の最盛期であり、十月十日から東京オリンピックが開催されるから都心部はスモッグまでが大はしゃぎです。そんな時、筑波山の無線中継所に勤務変更を命じられたのです。女房殿は結婚前には「転勤はない」と云っていたのに、とお冠であつたが、宿舎は陽当たりの良い南向きで標高がおよそ三百mの地は澄んだ空気、水は清水で美味しただけでなく、子供達の喉が日増しによくなったのを感じると、女房殿の顔も

筑波山の想ひ

小塚 和盛 27SD4C008



一寸余談になりますが、年末年始の深夜にお参りをする慣習があり、神社からの要請もあり、我々も協力してこの道に他の中継局と共同で照明灯を仮設したものです。筑波山は関東平野に突出した岩山で、雷と地震の多い所で中腹には東大の地震観測の洞窟もあり、そのそばに落雷にやられた大木が横倒しになっているのを見ることが出来たのは私には収穫であり、その姿は雷獣が裂いたの言い伝えが判るような感じてした。私が体感した最大の地震は真夜中に居室の壁がびび割れた程で、予備の発電機も試験運転をし、アンテナ類に異常は無いが、などを調べ廻ったのを今でも想い出します。雷の方は室内を飛び回ると聞いていたので私は残念ながらお目にかかれなかった。その代わりとしては少しキザですが、つむじ風が夕立の雨を岩の間から勢いよく巻き上げて見られるのが見られたことです。私の想像では女体山頂近くで表面の土が流されて岩が露出しているような場所、南向きの岩は太陽熱で充分にエネルギーを蓄積している事から雨水が熱せられ、つむじ風を起したものではな

いかと勝手に決めつけています。

この考えは「弁慶七戻り」と云われる大きな岩が近くにあることや、表土の薄いことから勝手に考えたのです。その後無線回線の増設工事で稜線の上を掘削すると土の中に岩があるのではなく、岩の中に土がある状態を実際に見せつけられたのです。

話題は変わりますが業務で真北の確認作業をするに北極星が逃げ回っているのです。初めは測量技能のせいとか、或いは真冬の夜中と寒さ。或いは地球の自転、公転のせいかななどと、レンズ位置を何度も点検し、三脚や測定台を確認した結果、動きの速さから相手側が円を描いているとの確信を得ました。

後日文献で自分の考えが間違っていないことを確認したのですが、今となれば昔の船舶乗務に携わっていた方々の苦労と観測、測定技術の優れていた事を思い知らされます。

寒さと云えば通勤の足、ケーブルカーが観光客の少ない冬の季節に二か月ほど連休して整備をした時は、三日に一度の宿直勤務を二日連続の体制をとり、一寸したポーター気分でしたが、それとは別の悪天候で止まった時などは、宿直明けの同僚のことを考えながらの登山は少々辛いものがありました。

次の想い出は晩春の候のことです。局舎の周囲には観光客は勿論、山頂でお勤めの白衣の宮司さんも居なくなった時間帯に、豆腐屋さんの吹くラッパの音が局舎の前から聞えてくるのです。驚いた私が相棒に伝えると「あれは下の集落からだよ」と、気にも留めません。相棒は此処での勤務回数が多いので知っていたのです。

それでも満足できない私は屋上へ出て辺りを見回すと人つ子一人居ない。西の空には夕陽が沈みかけているのが見えるだけだ。

改めて集落の見える方面を眺めていて気が付いた事は、風が無い、空気が動いていないのだ。気圧の変化が下の音を押し上げていることを体感した最大の収穫でした。同じ様な陽気の夕方、屋上設備の点検を終えて降りよ

うとした目に入ったのは雲の絨毯を上から眺められたことです。標高八百八十m程の高さから下に見えたその景観は私にとっては驚きの一言に尽きます。

場所は山の西北側、標高は八百m程だと思うのですが西から南へ流され山腹に当たったものでしょうか、男体山側から下に落ち込んでいるのが見えるのです。

その情景は「西遊記」に出てくる神仏が三蔵法師と、その弟子一同を乗せて極楽浄土へ飛んでいく姿を連想させる様な不思議感は今も脳裏に浮びます。残念なのはこの景色を何らかの記録に留めて置かなかったことです。似たような景観は、雨の空港を飛び立つた日に雲の上に出ると明るい陽の光の下で純白の雲がゴツゴツした姿を見ることが出来ますが、絨毯を連想させる形態ではありません。

改めて薄れかけている記憶を呼び出して対比すると、凸凹を感じさせない陰影のある白色が浮ぶのです。気象学の勉強をし、研究したのではありませんが、春の雲は雨を降らせる様な厚い雲ではありませんし、流れが緩やかであつたからだと勝手に決めていきます。

勉強と云えば当時の科学技術は急速に進歩し、真空管が小型化から半導体へと進化するにつれ、漏洩電波が問題になった事も思い出ですが、目前の女体山頂でのアマ無線局の通信が移動通信系に混入したことがあり、先方に中止をお願いをしに出掛けたところ、何を勘違いしたのか『そんなことなら俺が診てやるから』と威丈高な返事が返ってきました。

こちらが「周波数が異なるのに」と云う隙もないので、やむなく「それではお願いします」と局舎前まで案内したところ、看板が目にはいったのか、急に『済みません、失礼しました』と態度が一変し、早々に下山して行った時の事が思い出されます。

技術的や設備の事については様々なことを勉強しましたが、思い出されるのは「無停電電源装置」です。この装置を開発した会社を知人が有り、話を聞いているだけでなく、地

震対策に不備があつたのか、台座から落ちたこの事も知らされていましたから、現物を保守する立場としては些か心配でした。

何分にも二十五KVA入力で、十五KVA出力の回転機器ですが、遭遇した地震には異常なく動作をしていたので、我々も役目を果たす事が出来ました。

約三年の勤務期間で地元の方々との付き合い方と生活習慣などの違いに地域性を知る事と、気候の違いなどを体感したことを少し。

まずは戸惑った事の一つが我々を「国警の何々」と云う事です。昭和二十年代に地方と国に分けられていた警察制度の名残なのです。

ついて七五三の祝い事が十二月に行われていることです。着任早々の時ですが、これを教えて下さった所長、同僚にも同じ年の子供が有り、この地では手に入らない飴を東京で手配をしたことです。お宮参りは勿論筑波山神社であることは云うまでもありません。

この頃になると寒さを感じるのが当たり前なのですが、我々の居住地は気温の逆転層とかで、少し下の地帯では霜が降りている時期なのに暖かさが続いているのです。そして年末には大きな露の臺が見られるのです。これを実家の父に持って行ったら、大変喜ばれたのはせめてもの親孝行だったかな。

春は早くからやって来るのですが、北側の山頂近くではなかなか雪が溶けないよつて五月だったと記憶しているのですが、溶けた雪の下から事件性のない遺体が発見されたことがあつたのです。南側では積雪が僅かで即日消えていたので発見が遅れたのです。

この頃は休日二人の娘を連れ、山菜の蔵を摘み取りながら遊ばせたものでした。八月頃まではケーブルカーの車窓から躑躅の赤い花が下から順に咲いていくのが見られます。山に入れば路が探れ、その葉は喉の薬だと聞かされ、義父の家に行く度に医者通いをしていた娘達に葉は勿論、茎も食べさせたのが功を奏したのか、三年後には東京の空気が綺麗になったからかは判りませんが、このことで

医師の世話にならずに済むようになったのでした。

初秋からはキノコ狩りですが、知識は「しめじ」一種だけしか知らないし、生える場所も知らない私には収穫は極、僅かでした。この時期が過ぎる頃になると、銀杏拾いです。宿舎のすぐ近くで雨や風の後に集めたのを娘二人に味を占められ、拾いに行くのをせがまれ、甘皮を洗い流してフライパンで音が鳴るまで付きまとわれたが、鮮やかな緑色を喜んで口に入れるのを見ながら二や三やしていたのは親バカと云うのでしょうか。このことは未だに娘は忘れられないのか、時期になると話題になるのです。

あとがき
この駄文は都会暮らしの経験だけの小生が二年十一月の山暮らしを錆びたメモリーにカツを入れながら絞り出したもので、本業はともかく、気象や天文のこと、そして地学にまで頭を突っ込み楽しんだことの一部です。

~~~~~  
**電機大学同窓会校外研修会と  
東京江戸歴史散歩**

中原 秀治 Ysuis883

最近、電機大の各種行事に参加することが多い。一月からホームカミングデー、二月同窓会の校外研修会、一月は四七年卒応用理化学科新年会、二月は二四日の東京江戸歴史散歩である。今回はこの中で校外研修会と東京江戸歴史散歩を取り上げてみたい。まず、二月の二三日に行われた同窓会校外研修会。これは一日目北千住の電機大前に集まり、バスで群馬へ向かい、ハツ場ダムを見学し、草津温泉で泊まり翌日は富岡製紙場を見学後、おきのやで「釜めし」をいただいて、高速をひた走り北千住の電大で解散という行程である。

北千住の電大をあとにして首都高速から関越自動車道にバスは入る。隅田川河畔を走る貸し切りバスの中で昼食、そして鳩山キヤンパスをはるかに望み群馬に入る。吾妻線を車



羽田クロノゲートは、羽田空港に隣合わせる様に建造され、同時に陸上輸送、海上輸送にも見事に連絡ができて、ヤマトグループの最新かつ最大級の物流拠点である。集貨荷物の発送と到着荷物の配達を一挙に手掛ける巨大な自動仕分けシステム、ベルトコンベアーが生き物の様に荷物を捌いてゆく。

## 今秋の見学会

(東京都支部協賛)

●見学場所 クロノゲート

●期日 11月10日(土曜日)

●定員 先着 40名限定

クロノゲートの名前は「クロノス」ギリシャ神話の時間の神に由来して、新しい空間と時間を提供する出入り口との意味で、物流の拠点としての象徴である。こうした大和運輸の精神を一般の方々にも公開したいとの意向で、見学コースを設け、アテンダントが詰めていて案内に心血を注ぐ。従って人気もあって、今回も一年近く前から予約をして、実現の運びとなった。最高の見所はエレベータにヴァーチャルリアリティを模した仕組みを施して、乗ったままで各階が一挙に俯瞰出来る事であろう。

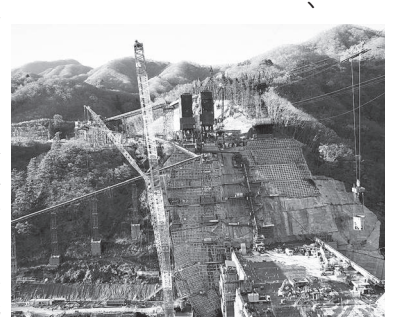


今宵の泊りは「喜びの宿 高松」結構部屋数のあるホテルでしたが、あまり気にせず懇親会になだれ込み。大広間で夕食後、幹事部屋で二次会。三々五々に自分の部屋に戻り就寝。

窓に見ながら「なるほど やんば資料館」に到着。ここでヘルメットを渡され、資料館で勉強したのち徒歩でハツ場ダム工事現場へ向かうと、吾妻川の上流に忽然とダム工事現場が出現する。直前にコンクリートを作る工場があり、そこから工事現場に生コンが運ばれ次々におろされる。黒四ダムみたいに満々と水をたたえたダム湖は見たことがあるが、今作っているダム、まだ水ははるか下方にあるか無しの現場を見たことはなかった。ここで案内の人に専門的な質問が飛び、そして、いろいろ説明を受けたのち、本日の宿舎・草津温泉へ。

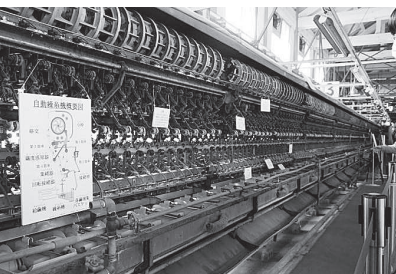
九時半ごろ記念写真を撮ったのちバスに乗り、軽井沢を経て、一路富岡製糸場へ。その間、車内で昨日の睡眠不足を補う人、話に花を咲かせる人、まだ飲み足りないのかひたすらコップを傾けている人、そんな皆さんを乗せ富岡製糸場へ。この富岡製糸場、日本の近代産業遺産として初めて世界文化遺産に登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」の中核として有名である。そしてその建物、機械などが昔のまま保存されているのに驚く。

翌日は、朝御飯のあと湯畑を見学し、その湯量に感心したものでした。



ヨーロッパを旅しているとはるか昔、そのローマ時代の建造物が残されているのに出くわすことが度々ある。しかし、日本は根こそぎ新しいものにかわっている。気候の違い、材料の違いで一概には言えないものの、残念である。しかし、ここは当時の物がそのまま残っている。所有者(会社)がかわってもそのまま保存されている。最近、ここでも昭和の遺物が話題になるが、ここは明治である。近代産業の息吹が感じられる。

二月二十四日、今度は同窓会広報委員会主催の東京江戸歴史散歩に参加した。健脚の方は靖国神社の大村益次郎の像、標準では東京電機大学跡地前集合。そして小生は上野の西郷像の後ろ



待つことにした。一〇時半の第二集合場所へ一〇時ごろ到着し、神田からの本隊を待つことにしたが、予定より時間がかかるように、SNSでの問い合わせに「一〇・三〇に湯島天神をします。参加者二六名の大部分です」の返事。上野からの参加は私一人、皆さんの元気にびっくり。もともと、武蔵野寮にいた折は、学園祭に武蔵野から神田まで大勢の人が歩いたことを思い出したが、当時はみな若かった、今は皆そこそこ歳。関心するやら、驚くやら。

|                 |                 |                 |                 |                 |                 |                 |                 |
|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 366             | 366             | 366             | 366             | 366             | 366             | 366             | 366             |
| 張明丁             | 吳有鑑             | 吳崇貴             | 曾通倫             | 張明亮             | 張明亮             | 張明亮             | 張明亮             |
| 九年秋             | 七年春             | 六年春             | 三年春             | 九年春             | 九年春             | 九年春             | 九年春             |
| 台灣電力公司台<br>南營業所 | 台灣電力公司台<br>南營業所 | 台灣電力公司台<br>南營業所 | 台灣電力公司台<br>南營業所 | 台灣電力公司台<br>南營業所 | 台灣電力公司台<br>南營業所 | 台灣電力公司台<br>南營業所 | 台灣電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |
| 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 | 台南電力公司台<br>南營業所 |                 |                 |





PC教室集合写真

た。  
台北で七、八名の電機学校のOBに歓迎を受け、その後、宜蘭、台中、嘉義、台南、高雄と移動する先々で歓迎の夕食会を、観光地日月潭と変電所に案内をして頂いた。  
異国になった、台湾校友会員の母校を思う気持ちの強さには感銘を受けました。  
その時頂いてきた昭和四十三年発行の台湾校友会名簿によれば会員は六十名で、昭和十年代に電機学校、高専を卒業され、二十四名が台湾電力会社の要職にあります。  
昭和四十七年に山岳部が本格的なヒマラヤに遠征隊を送り出した。この時は二部山岳部OB会（錦校会）が計画の段階から全面的に協力をして、学園、校友会、校友会の会員の企業等に後輩への援助をお願いして廻った。  
お陰様でフアブラン峰6140mの登頂に成功した。「ヒマラヤ遠征報告記」を工学情報336号に掲載して頂いた。  
支部役員を仰せつかつて、最初に企画した行事が、OA化の推進に必要なパソコン操作を習得する、「パソコン教室」でした。  
母校千葉ニュータウンキヤンパスでは新入



自衛隊見学会

生全員に、事務処理の道具としてのパソコンを、自由自在に使いこなすための教育をして頂いた。（当時この斬新な教育は各方面から注目されていた）  
平成八年に土肥先生にパソコンの入門教育をお願いして「パソコン教室」を開催した。この教室は好評で、毎年続けて三回行った。パソコンの立ち上げ方、キーボードの操作方法、文書作成、作表、グラフ作成、ホームページの閲覧、メールの送受信等を実演指導して頂いた。  
平成十四、五、六年に役員の研修旅行があった。役員相互の親睦に役立った、支部の運営が円滑に行えるようになった。  
平成十八年に役員のための見学会を、成田空港に勤務していた黒岩幹事をお願いして成田空港の整備工場を見学させて頂いた。  
これが好評だったので、安藤幹事が「会員向けの見学会を開催しようよ」と提案してきた。前科があるので（平成十一年に行った千葉ニュータウンエネルギーセンターの見学会は参加者七名で、大失敗をしていた）恐る恐る行った、自衛隊木更津基地見学会は盛況でした。その後は毎年見学会を開催している。見学会等の事業を推進する際に使う名刺は

支部で統一したものを作り役員に配布した。これは役員の連帯感、帰属意識の向上に役立った。現在まで四十名以上の役員が使っている。

突然、支部だよりの編集を担当することになりました。初めての編集作業は五里霧中でした。だよりのバックナンバーから先輩方のノウハウを読み取りながら何とか発行をしてきた。

先輩役員が名刺広告で印刷費を捻出して発行してきた支部だよりを継続しなければならぬ。電子化の時代に紙面は不要との声もあるなか、毎号多くの方に投稿をお願いして、役員各位より費用を援助して頂き紙面を四頁から八頁へと拡張することが出来ました。会員の方々も「支部だより」の有用性を認めて下さり、発行費用を寄付して下さいました。

記念すべき二十号は十頁版で発行出来ました。校友会より二十年間継続発行に対して褒賞金を頂き感銘しました。

支部だよりが果たす役割は、校友会、学園の近況、支部事業等の報告をすることであり、会員の投稿記事で読者との親睦を図ることだと思っている、発行をして来しました。

台湾のOBが後輩の台湾遠征山行を大歓迎してくれたこと、千葉県支部のためにパソコン教室を続けて三回も開催して下さいしたこと、公開講演会の講師の先生方のご厚意も校友会あつてのことと思います。

若い頃は支部の各行事に積極的に参加をして親睦を深め、役員時代には各行事を遂行することが、校友会の目的に合うことだと思ひ取り組んできました。

昨年、役員を離れましたが、これからも支部の行事に参加をして皆様とお付き合いを続けさせて頂きます。

楽しくお付き合いをさせて頂いた支部より感謝状を頂きました。有難うございました。

## 千葉県支部総会と公開講演会 及び懇親会のご案内

日時 平成三十年六月二日（土）  
会場 東京電機大学

東京千住キャンパス 一号館

◎公開講演会 十時三十分～十二時

テーマ 身の丈に合わせたリハビリテーション装置

講師 東京電機大学工学部  
先端機械工学科 三井和幸 教授

◎第四十八回総会

十二時十五分～十三時十五分

◎懇親会 二階の食堂にて立食で歓談

十三時三十分～十五時三十分

◎会費 三千元

万障お繰り合わせの上ご参加下さい

## 編集後記

「支部だより」の編集を新たに担当しました大門です。皆様方にご寄稿をしていただきまして、第二十一号を発行することが出来ました。心から感謝致します。

一方で引き継ぎました私ですが、殆どの部分を、前期まで発行に従事為されていた先輩に頼ってしまいました。

支部長を初め、加藤理事長、松尾理事長のご挨拶。支部総会、見学会をご担当の役員にご報告をして頂きました。当方の手違いにより学園の近況は掲載できませんでした。本号も沢山の投稿をして頂きました。有難うございました。

今回より投稿者のお名前に会員IDも並記させて頂いており、会員の卒業年次や卒業学科等お知らせして、皆様と親しみを共有して頂くためです。フランスを保つために、両理事長にもと思いましたが、掲載しませんでした。

第二十一号発行の費用は会員の皆様よりのご寄付によるものです。有難うございました。次の第二十二号も発行を予定しており、沢山の投稿と費用のご援助をお願いします。

常任幹事 大門 正明 03522H071